

原始感覚美術祭 2013 と原始感覚の里プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

- エネルギー問題等、地球環境との付き合い方について見直すべき時代。食生態学者、探検家の西丸震哉氏の原始感覚の普及の意志に基づき、大町で大自然と共に暮らす人々の中に受け継がれる叡智と自然と共生する素晴らしさを地元自身が再認識し、発信していく。
- 作家および地元住民、行政が一体となり美術祭を開催し、地域文化の振興を図るとともに、縄文遺跡が残る木崎湖畔の美しい景観を生かした新しい原始の里の創造を目指す。

事業内容

『信濃の国原始感覚美術祭 2013ー水のまればと』
(H25年8月3日～9月8日)

- 原始感覚をテーマに大町市木崎湖畔で作家による滞在制作やワークショップ、公演、イベント等を行う美術祭を開催し、「木崎湖×アート×原始感覚の里」を発信した。
 - 国内外から公募により参加した芸術家が湖畔の景観に合ったここでしか生まれえない常設作品等を制作した。
 - 作品展示やイベント等、運営に数多くのボランティアが協力し多くの人と一緒に『祭り』をつくることができた。
- ＜滞在制作と講演等＞

田島征三、水川千春、浅井裕介、パクボンギ、香川大介、アンドレアハックル、キムヨンミン、やまなみ工房作品、シルパジョグルカー、榎野文平、杉原信幸、茂木健一郎、関野吉晴・田口ランディ対談、朝崎郁恵、スパンコスモ、タテタカコライブ、戦争絨毯展、青島左門、本郷毅史 他



【キム・ヨンミン「Songs of the Lake」】

事業効果

- 作家の滞在制作や市民や作家を結び付ける催しを開催することで、より地域との絆を深め、市内外から訪れた人等、より多くの人を結びつける美術祭となった。
- 市教育委員会と共催することで、市内の小中学校とワークショップを行う等、子どもたちが参加することで、地域文化教育に貢献することができた。
- 4年間の美術祭の効果が地元にも浸透し、食と観光研究会によるアートディレクター北川フラム氏を講師に迎えた町おこし勉強会が開始され、瀬戸内国際芸術祭の視察や、北川フラム氏コーディネート「信濃大町食とアートの廻廊」開催に繋がる機運を高めた。
- 美術祭延べ観客数 H24年度延べ6,600人→H25年度延べ8,492人（前年比28%増）
木崎湖地区民宿の宿泊数前年比50人増

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

初めて参加作家を公募したことにより、木崎湖の風土を新鮮な感覚で表現し、大きく可能性の幅を広げることができた。作家と寝食を共にした美術祭サポーターの『湖畔隊』には、夏の一時だけ現れる湖の家族のような一体感が生まれた。稲刈りを手伝うなど、「スタッフ、作家、地元の方の距離が近く、とても楽しかった」という声が多く、今後もより充実した運営体制を構築していくとともに、「信濃大町 食とアートの廻廊」とも連携し、より多くの人が大町を知り、愛し、そこに住むような地域づくりと美術祭を行いたい。

【選定のポイント】

今後も地域との連携を大切にしながら、継続して開催することにより、地域に定着した地方文化を生み出すようなイベントになることが期待できる。

団体名 原始感覚美術祭実行委員会（大町市） 連絡先 0261-22-1436 ホームページ http://primitive-sense-art.nishimarukan.com/	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">事業タイプ</td> <td style="padding: 2px;">ソフト事業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">事業費</td> <td style="padding: 2px;">3,090,808円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">支援金額</td> <td style="padding: 2px;">2,190,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト事業	事業費	3,090,808円	支援金額	2,190,000円
事業タイプ	ソフト事業						
事業費	3,090,808円						
支援金額	2,190,000円						